PRESS RELEASE

〈報道関係各位〉

YURINDO

2023 年 10 月 20 日

株式会社有隣堂

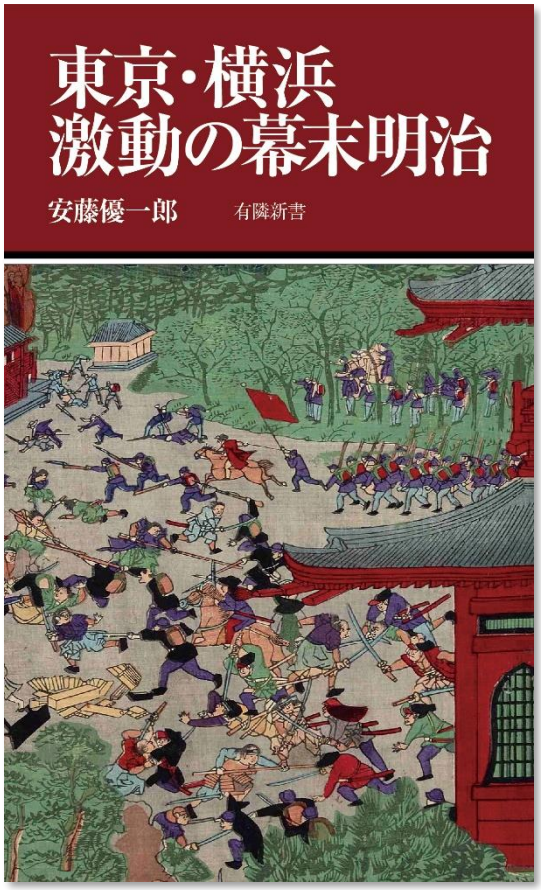
歴史家・安藤優一郎氏が読み解く 2大都市の対立と繁栄の幕末・近代史

最新刊 有隣新書89『東京・横浜　激動の幕末明治』12月1日発売

有隣新書が大幅に読みやすくなってリニューアルしました

株式会社有隣堂（本社：神奈川県横浜市 代表取締役社長：松信 健太郎）は、12月1日、当社出版物の最新刊として、有隣新書89『東京・横浜　激動の幕末明治』を発売します。著者は、歴史家の安藤優一郎氏。嘉永7年（1854年）、日米和親条約の締結・調印の地として、横浜が日本史の表舞台に登場してから、明治期の近代化が加速するまでの東京と横浜、両都市の関係を、比較しながら新たな視点で読み解いていく一冊です。また、有隣新書が大きな文字とゆったりとした行間で読みやすくなりました。この機会にどうぞお手に取ってご覧ください。

●書 名：有隣新書89『東京・横浜　激動の幕末明治』
●著 者： 安藤 優一郎
●出版社：有隣堂
●定 価：税込1,210円 (本体1,100円＋税)
●体 裁：新書判・本文216頁
●ISBN：9784896602459
●発売日：2023年12月1日予定
●取扱い：有隣堂各店（一部店舗除く）、全国の書店
●内 容：
日米和親条約の締結・調印の地として、嘉永7年（1854年）横浜は日本史の表舞台に登場する。
安政6年（1859年）の横浜開港後、攘夷運動が高まり、次第に江戸幕府の弱体化が顕著となる。
転換点となる江戸城総攻撃の中止には横浜の外交団の力が大きく与かっていた。
明治に入り両都市の距離が縮まることで、横浜をモデルとした東京の近代化も加速していく。
東京築港論争を経て、横浜が貿易港として発展していくまでを、両都市の関係史、比較史の視点から読み解いていく。



著 者：安藤 優一郎（あんどうゆういちろう）
1965 年生まれ。早稲田大学文学研究科博士後期課程満期退学。文学博士（早稲田大学）。江戸をテーマとする執筆・講演活動を展開。JR 東日本「大人の休日倶楽部」など生涯学習講座の講師を勤める。主要著書に『徳川家康「関東国替え」の真実』有隣堂、『明治維新―隠された真実』日本経済新聞出版、『渋沢栄一と勝海舟』朝日新聞出版など。

■担当編集者が語る本書の読みどころ

1. 有隣新書が読みやすくなりました。

読者から、字が詰まっていて読みにくいとのご指摘を受けて、フォントの見直しとそれに伴う文字の大きさや行間の変更を検討いたしました。最終的には、読みやすいフォントに変更し、文字を大きくして、行間を広げました。その結果、1 頁あたりの文字数は 2 割程度減りましたが、大幅に読みやすくなったものと自負しています。

2. 東京と横浜の対立と繁栄の歴史を新たな視点で読み解きます。

著者には東京と横浜の関係史をテーマとしてご執筆いただきました。幕末から明治にかけての歴史を描いた書籍のなかで、江戸・東京を中心に描いたもの、横浜を中心としたものは多くありますが、両都市が相互に対立しつつも、ともに繁栄していくまでを描いた書籍はあまり目にすることはありませんでした。この新刊が、幕末明治史、江戸東京史、横浜史を読み解く上で、読者の皆様に新しい発見と視点をお届けできましたら幸いです。

■有隣堂の出版物：https://www.yurindo.co.jp/yurin/sinsho